



2月園だより

令和6年2月1日

平和台幼稚園

<http://www.okamoto-gakuen.com>

弁当力という力

フランス・中国・トルコの3国が世界三大料理の国々です。フランス料理がフランス文化を育み、中華料理が中国文化を育み、トルコ料理がトルコ文化を育みました。もちろん世界約200カ国のそれぞれの料理がそれぞれの文化を育んできました。レストランで食べることもありますが、ほとんどは家庭で作られ食べられてきました。その家庭の味がそのままその国の文化を育み支えてきました。

中学の3年間弁当でした。アルミ製の弁当箱にぎっちり詰めたご飯に少なめのおかずが、私の中学校時代を育み支えてくれました。その弁当は毎朝母が作ってくれました。その後も母の弁当が高校3年間を育み支えてくれましたが、中学とは少し違いがありました。毎日1時間目の休み時間にその弁当をいただき、昼休みには売店で買うパンやカップラーメンでお腹を満たしておりました。柔道部の朝練でへトへトな身体を復活させるには1時間目の弁当が必要でした。まさに弁当力です。弁当が机の中にあることに不思議な安心感があったことを覚えています。

また、高校時代の恩師小林信次郎先生は横浜出身のボクシング部顧問です。見た目にはとても先生には見えず怖い組織の人ようですが生徒想いのとても優しい先生でした。当時その先生に道を正された生徒は数多くいました。その先生

が教師を目指した理由が弁当なのです。当時小学校3年生の小林少年は家庭が貧しく遠足に行っても弁当は持っていきませんでした。弁当を食べているクラスメートを横目に弁当なしの仲間が数人集まっていると、担任の先生が重箱を広げてくれておにぎりをおなかいっぱい食べさせてくれたそうです。進学を迎えた小林青年は教師を目指すか。他の道で悩みましたが、小学校時代のあの重箱のおにぎり弁当のことが忘れられず教師を志すこととなりました。人はひもじさが満たされたとき前向きになれるのです。弁当力のすごさです。

今年度もあと二ヶ月となりました。年少さんは一年間、年中さんは二年間、年長さんは三年間、お弁当を作っていただき本当にありがとうございます。子どもたちの幼稚園での活動エネルギー源のすべてがこのお弁当にありました。給食はないのですか？と言われることもありますが、弁当には力があり、安心があり、文化があります。

時代は大きく変わろうとしておりますが、『食べる』ことについては人類永遠の営みです。今食べているものが10年後の自分を作っていきます。10年後にどんな自分になりたいか？と考えたときにインスタント食品ばかりでは少々不安です。食育基本法が施行され久しいですが、食育とは食べるものを自分で作る。または、その家族が作るかにあると思います。

幼稚園に就職した30年前も、もちろん幼稚園では弁当でした。ただし幼稚園ではお昼の時間まで保温庫に入れるので、温かい弁当をいただける幸せがあります。弁当力にプラス保温力が加わり無敵な感じですよ。その弁当は30年間奥さま

に作っていただきました。毎日どんなおかずが入っているかが
楽しみのひとつです。30年間私と仕事を支えてくれたことに
あらためて感謝しております。「ありがとう」

園 長

